

小松左京マガジン 第50巻

(イオ・1000円)

二〇〇一年、古希を期して最後の道楽と言って始めた同人誌だが、二〇〇一年、東日本大震災の四ヶ月後に逝去。『日本沈没』を思わせる大災害を踏まえて、自然と文明について語って欲しかったのにと残念だ。その後も雑誌は続いたが、今回の50巻が最終巻である。巻頭に、小松さんの原点である上方とSFのそれぞれをテーマにした座談会が二つ並ぶ。司馬遼太郎、茂山千之丞、桂米朝さんなどと関西を代表する文化人・芸能人との本音でのつき合いが、小松文学の大らかさを支えていることがよくわかる。日本・日本人とは何かを歴史、民族、地勢などすべてから考える表現としてSFを選んだという小松さんが、晩年「SF学部」を提唱していた話も興味深い。終わるのが惜しい。(桂)

MAGAZINE